

2. 水道施設の機能診断・マイクロマネジメント

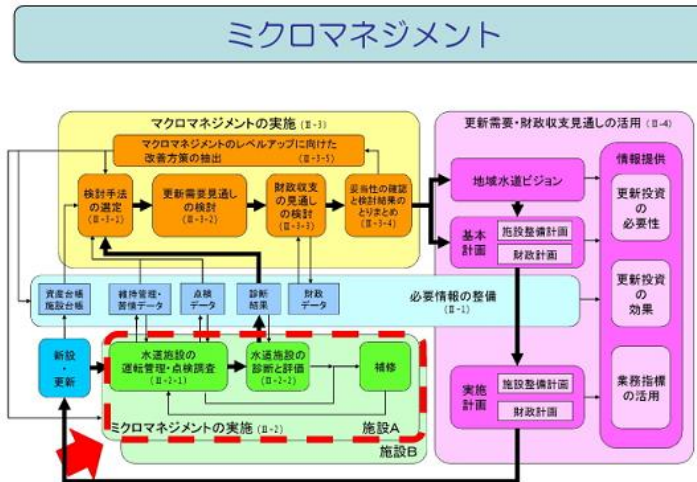
概要

中長期的財政収支に基づく施設更新等を計画的に実行し、長期的視点に立ち水道施設のライフサイクル全体で効率・効果的に管理運営することが必要です。

業務実施のメリットや効果

- ① 評価を数値化することにより、定量的に診断が可能となります。
- ② 水道施設の技術水準が向上します。
- ③ 施設稼働率や維持管理性の向上が図られ、省力化、省エネルギー化につながります。

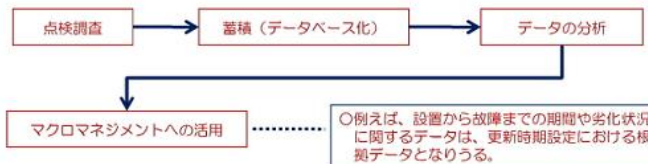
- ◆ 土木施設、機械・電気・計装設備、管路等を総合的に診断・評価できます。
- ◆ 水道事業全体としての評価も可能です。
- ◆ 水道ビジョンとの整合評価を行います。



マイクロマネジメント（運転管理・点検調査）

水道施設の運転管理・点検調査

- 水道施設の日常的な運転管理から、施設の状態を把握。また、定期的な点検により、劣化の進行等を確認。
- このような点検調査は、水道施設の稼働状況の確認だけでなく、事故や故障の予兆を発見する上でも重要。
- 長期間蓄積された点検データは、水道施設の健全度、故障、事故の傾向等を知るための基礎データとなる。
- なお、点検調査の結果、著しく劣化が進行している場合には緊急対応として補修等を行い、機能の正常化を図る。



マイクロマネジメント（診断・評価）

水道施設の診断と評価

- 一般に施設の寿命は一律に定められるものではなく、当該施設の立地条件や使用環境等によって異なる。
- このため、更新時期の設定に当たっては、できるだけ機能診断等に基づき健全度評価を行い、その評価結果を踏まえて最適な更新時期を定めることが重要。
- 耐震に関しては、平成20年3月の省令改正（「水道施設の技術的基準を定める省令」）により、水道施設の備えるべき耐震性能基準が明確化。
- 一方、既存の水道施設は、その建設時期によって備えている耐震性能は異なっていると想定されるため、耐震診断等により既存施設の耐震性能を評価し、省令で要求されている耐震性能との関係から、早期の更新の必要性や、個別施設ごとの適切な更新時期（耐震化時期）の設定などについて検討する。



（出典：水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き～中長期的な視点に立った水道施設の更新と資金確保～
－ 概要版 －平成21年7月 厚生労働省健康局水道課）